

一般国道9号（中山名和道路）の改築に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅶ

鳥取県西伯郡大山町

TONOGAWA CHI KAMI NO DAN OO BU KE
殿河内上ノ段大ブケ遺跡

2014

鳥取県埋蔵文化財センター
国土交通省 倉吉河川国道事務所

一般国道9号(中山名和道路)の改築に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅶ

鳥取県西伯郡大山町

TONOGAWA CHI KAMI NO DAN OO BU KE
殿河内上ノ段大ブケ遺跡

2014

鳥取県埋蔵文化財センター
国土交通省 倉吉河川国道事務所



1区完掘状況（上空から）



2区完掘状況（上空から）



1 SI 2完掘状況（北から）



2 集石・石柱（復元）検出状況（北東から）



1 1区出土縄文土器



2 2区流路1出土人面土製品

序

鳥取県埋蔵文化財センターは、一般国道9号中山名和道路の改築に伴う発掘調査を、平成21年度から実施し、平成24年度ですべての遺跡調査を終えることができました。遺跡数は12遺跡、調査面積は延べ7万3千平方メートル以上に及んでいます。

本書に掲載した、大山町に所在する殿河内上ノ段大ブケ遺跡は平成23年度、平成24年度に亘って調査を行い、縄文時代から中世にかけての遺構・遺物を検出するに至りました。

特に、縄文時代後期初頭の竪穴建物跡5棟を確認し、縄文土器をはじめ大量の遺物が出土し、県内でも有数の縄文集落がこの地にあったことを示し、地域の歴史を解明するための重要な資料を確認することとなりました。

鳥取県埋蔵文化財センターでは、発掘調査により明らかとなった遺跡や出土品を活用し、その普及啓発に努めることも重要な業務としております。

殿河内上ノ段大ブケ遺跡では、計2回の現地説明会を開催し、ご来場いただいた県内外からの方々にその素晴らしさを実感していただきました。

本書は、その調査結果を報告書としてまとめたものです。この報告書が、郷土の歴史を解き明かしていく一助となり、埋蔵文化財が郷土の誇りとなることを期待しております。

本書をまとめるにあたり、国土交通省倉吉河川国道事務所、地元関係者の方々には、一方ならぬ御指導、御協力をいただきました。心から感謝し、厚く御礼申し上げます。

平成26年3月

鳥取県埋蔵文化財センター
所 長 久保 穰二郎

序 文

一般国道9号は山陰地方を東西に結ぶ主要幹線道路であり、広域交通はもとより、観光交通、生活交通など、多様な交通を担う重要な路線です。

このうち、国土交通省倉吉河川国道事務所は、鳥取市青谷町から米子市(鳥取～島根県境)までを管轄しており、時代の要請に沿った各種の道路整備事業を実施しているところではあります。

中山名和道路は、西伯郡大山町八重から同町下市にかけての多種多様な交通による交通混雑の緩和、安全・円滑な交通の確保のほか、災害時の緊急輸送路の代替路線としての機能分担などを目的とし、さらに、山陰の地方都市間の連携を強化するとともに、環日本海交流の基幹軸の一翼を担う高規格幹線道路(自動車専用道路)として整備を行っています。

このルートには、多数の埋蔵文化財包蔵地がありますが、鳥取県教育委員会と協議を行い、文化財保護法第94条の規定に基づき、鳥取県教育委員会教育長に通知した結果、事前に発掘調査を実施し、記録保存を行うこととなりました。

平成23年度は、「樋口西野末遺跡」、「石井垣上河原遺跡」、「赤坂頭無し遺跡」、「赤坂小丸山遺跡」、「殿河内定屋ノ前遺跡」、「殿河内上ノ段大ブケ遺跡」の6遺跡、平成24年度は、「赤坂小丸山遺跡」、「下甲退休原第1遺跡」、「殿河内上ノ段大ブケ遺跡」、「殿河内ウルミ谷遺跡」の4遺跡の本調査について、鳥取県埋蔵文化財センターと発掘調査の委託契約を締結し、発掘調査を行いました。

本書は、上記の「殿河内上ノ段大ブケ遺跡」の調査結果をまとめたものです。この貴重な記録が、文化財に対する認識と理解を深めるため、ならびに、教育及び学術研究のために広く活用されることを願うと同時に、国土交通省の道路事業が、文化財保護に深い関心を持ち、記録保存に努力していることをご理解いただければ幸いと存じます。

事前の協議をはじめ、現地での調査から報告書の編集に至るまでご尽力いただいた鳥取県埋蔵文化財センターの関係者に対して、心から感謝申し上げます。

平成26年3月

国土交通省 倉吉河川国道事務所
所 長 角田 文敏

例 言

- 1 本報告書は、国土交通省倉吉河川国道事務所の委託により、鳥取県埋蔵文化財センターが一般国道9号(中山名和道路)の改築に伴う埋蔵文化財発掘調査事業として、平成23年・24年度に行った殿河内上ノ段大ブケ遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 本報告書に記載した遺跡の所在地及び調査面積は以下のとおりである。
西伯郡大山町殿河内字上ノ段大ブケ912-1ほか 平成23年度 調査面積：5,562m²
西伯郡大山町殿河内字上ノ段大ブケ898ほか 平成24年度 調査面積：4,314m²
- 3 本報告書で示す標高は、国土交通省2級基準点H10-2-13の71.286mを基準とする標高値を使用した。方位は公共座標北を示す。磁北は、座標北に対し、約6°40′西偏する。なお、X：、Y：の数値は世界測地系に準拠した公共座標第V系の座標値である。
- 4 本報告書に掲載した地形図は、大山町作成の「大山町地形図」を使用した。
- 5 本報告にあたり、以下の内容を業者委託した。
調査前方眼測量、調査後航空写真撮影、調査後地形測量、放射性炭素年代測定、自然科学分析
- 6 本報告書に掲載した遺物の実測・浄書は、埋蔵文化財センター及び同発掘事業室調査担当が行った。
- 7 本報告書で使用した遺構・遺物写真は調査担当職員が撮影した。
- 8 本報告書の編集は牧本が行った。執筆は調査担当職員が分担して行い、目次に執筆者名を記した。
- 9 発掘調査によって作成された図面・写真などの記録類、出土遺物は鳥取県埋蔵文化財センターに保管している。
- 10 現地調査及び報告書作成にあたっては、下記の関係諸機関に御指導・御協力いただいた。明記して深謝いたします。
赤木三郎、稲田孝司、大山町教育委員会(敬称略)

凡 例

- 1 遺物の注記における遺跡名には「大フケ」の略語を用い、併せて「遺構名、遺物番号、日付」を記入した。
- 2 本報告書で用いた遺構の略号は以下のとおりである。
SI：竪穴建物跡、SK：土坑、SD：溝、P：柱穴・ピット、流路：自然河川
- 3 本調査における遺構番号は、基本的に発掘調査時のものと一致しているが、一部変更しているものがある。
- 4 本書における実測図の縮尺については、特殊なものを除き基本的に以下の縮尺としている。
遺構図 SI：1/80、SK：1/40、SD：流路：1/60・1/80・1/100・1/200・1/300・1/400、ピット群：1/100
遺物出土状況：1/20・1/40、遺物実測図 土器・土製品：1/3・1/4、
石器：2/3・1/3・1/4・1/6・1/10
なお、遺物実測図の縮尺については、破片実測の縄文土器は1/3、口径復元できた縄文土器及び弥生土器、土師器、須恵器等は基本的に1/4とした。
- 5 本書における土層名称は、基本的に『新版 標準土色帳』にならった。
- 6 遺構図・遺物実測図に用いたトーン及び記号は、特に説明がない限り以下のとおりである。
■：貼床、■：石器磨面、■：赤色顔料付着範囲
S：石器、W：木製品、M：金属製品、C：銅銭
遺物出土ポイント：●（土器）・□（石器）
- 7 遺物実測図の断面は須恵器を黒塗りとし、それ以外のものは白抜きで示している。また、遺物実測図中における記号は以下のとおりである。
→：ケズリの方向（砂粒の動き）
- 8 遺物観察表の法量記載における※は推定復元値、△は現存値を示す。
- 9 本報告書における遺構・遺物の時期決定は下記参考文献を参照した。

【参考文献】

- 小林達雄編 1989『縄文土器大観1～4』小学館
- 濱田竜彦 2005「山陰地方における縄文時代晩期土器について」『第16回中四縄文研究会 縄文時代晩期の山陰地方発表資料集』中四国縄文研究会
- 柳浦俊一 2010「4. 山陰」『西日本の縄文土器 後期』千葉豊編 真陽社
- 小林謙一 2008「縄文時代の暦年代」『縄文時代の考古学2 歴史のものさし－縄文時代研究の編年体系－』同成社
- 清水真一 1992「因幡・伯耆地域」『弥生土器の様式と編年－山陽・山陰編－』木耳社
- 牧本哲雄 1999「古墳時代の土器について」『長瀬高浜遺跡Ⅷ・園第6遺跡』財団法人鳥取県教育文化財団
- 田辺昭三 1981『須恵器大成』角川書店
- 八嶋 興 2011「鳥取県における古代須恵器の様相－奈良・平安時代を中心に－」『古代の須恵器』平成22年度埋蔵文化財専門職員研修「遺物調査検討過程」鳥取県埋蔵文化財センター
- 八嶋 興 2004「山陰の中世土器に関する覚書」『中近世土器の基礎研究』XVIII 日本中近世土器研究会編
- 重根弘和 2003「中世備前焼に関する考察」『山口大学考古学論集』近藤喬一先生退官記念事業会
- 木村孝一郎 2008「越前焼研究ノート」『吾々の考古学』和田晴吾先生還暦記念論集刊行会
- 上田秀夫 1989「14から16世紀の青磁碗の分類について」『貿易陶磁研究2』日本貿易陶磁研究会
- 藤沢良祐 2001「瀬戸・美濃大窯製品の生産と流通－研究の現状と課題－『戦国・織豊期の陶磁器流通と瀬戸・美濃大窯製品－東アジア的視野から－資料集』(財)瀬戸市埋蔵文化財センター

目次

序
序文
例言
凡例

第1章 調査の経緯

- 第1節 調査に至る経緯…………… (牧本) 1
- 第2節 調査の方法と経過…………… (牧本・濱本) 2
- 第3節 調査体制…………… (牧本) 4

第2章 位置と環境

- 第1節 地理的環境…………… (牧本) 7
- 第2節 歴史的環境…………… (牧本) 7

第3章 1区の調査成果

- 第1節 遺跡の立地と基本層序…………… (牧本) 11
- 第2節 1区の概要…………… (牧本) 15
- 第3節 縄文時代の調査成果
 - 1 概要…………… (牧本) 16
 - 2 竪穴建物跡…………… (家塚・折井・牧本) 17
 - 3 土坑・土器埋設土坑…………… (家塚・原田・牧本) 32
 - 4 溝…………… (家塚・牧本) 37
 - 5 集石・石柱…………… (家塚) 38
 - 6 土器溜り…………… (牧本) 41
 - 7 縄文時代包含層遺物…………… (牧本) 48
- 第4節 弥生時代の調査成果
 - 1 概要…………… (牧本) 54
 - 2 土坑…………… (折井) 54
 - 3 流路…………… (牧本・松田) 56
- 第5節 古墳時代の調査成果
 - 1 概要…………… (牧本) 62
 - 2 溝…………… (牧本) 62
- 第6節 中世の調査成果
 - 1 概要…………… (牧本) 65
 - 2 土坑…………… (牧本) 65
 - 3 ピット群…………… (原田・牧本・松田) 66

第7節	時期不明の遺構	
1	概要	(牧本) 69
2	土坑	(原田) 69
3	ピット群	(原田・牧本) 69
第8節	遺物包含層・遺構外出土遺物	
1	遺物包含層出土遺物	(牧本) 71
2	遺構外出土遺物	(高橋・牧本) 79
第4章	2区の調査成果	
第1節	2区の概要	(濱本) 80
第2節	2区の基本層序	(濱本) 85
第3節	縄文時代の調査成果	
1	概要	(濱本) 85
2	土坑	(濱本) 86
第4節	古墳時代から古代の調査成果	
1	概要	(濱本) 91
2	溝	(高橋) 91
3	自然流路	(高橋・勢村) 93
第5節	中世の調査成果	
1	概要	(濱本) 112
2	溝	(勢村) 112
3	土器・木器溜り	(高橋) 117
第6節	遺物包含層・遺構外遺物	(高橋・濱本) 119
第7節	出土遺物観察表	(勢村・濱本・牧本) 132
第5章	自然科学分析	
第1節	殿河内上ノ段大ブケ遺跡における放射性炭素年代測定(AMS測定)(加速器分析研究所)	173
第2節	殿河内上ノ段大ブケ遺跡出土試料自然科学分析(パリノ・サーヴェイ株式会社)	178
第6章	総括	
第1節	殿河内上ノ段大ブケ遺跡の縄文時代集落について	(牧本) 195
第2節	殿河内上ノ段大ブケ遺跡出土石器について	(高橋) 207

挿図目次

第1図	国道9号(中山名和道路) 関係遺跡位置図……………1	第48図	土器溜り1出土遺物(2)……………45
第2図	調査区位置図……………3	第49図	土器溜り1出土遺物(3)……………46
第3図	調査区区割り図……………3	第50図	土器溜り1出土遺物(4)……………47
第4図	遺跡位置図……………7	第51図	土器溜り1出土遺物(5)……………48
第5図	周辺遺跡位置図……………9	第52図	1-IV・V層範囲と遺物出土状況……………49
第6図	1区基本層序……………12	第53図	1-V層出土遺物(1)……………50
第7図	1区調査後地形測量図……………13・14	第54図	1-V層出土遺物(2)……………51
第8図	1区縄文時代遺構配置図……………16	第55図	1-V層出土遺物(3)……………52
第9図	SI1……………17	第56図	1-V層出土遺物(4)……………53
第10図	SI1出土遺物……………18	第57図	1区弥生時代遺構配置図……………54
第11図	SI2……………19	第58図	SK14……………54
第12図	SI2変遷図……………21	第59図	SD1……………55
第13図	SI2遺物出土状況……………22	第60図	SD1礫・遺物出土状況……………56
第14図	SI2出土遺物……………23	第61図	SD1出土遺物(1)……………57
第15図	SI3……………24	第62図	SD1出土遺物(2)……………58
第16図	SI3遺物出土状況……………25	第63図	SD1出土遺物(3)……………59
第17図	SI3炉上面土坑……………25	第64図	SD1出土遺物(4)……………60
第18図	SI3出土遺物(1)……………26	第65図	1区古墳時代遺構配置図……………62
第19図	SI3出土遺物(2)……………27	第66図	SD2……………63
第20図	SI4……………27	第67図	SD2礫・遺物出土状況……………63
第21図	SI5……………28	第68図	SD2出土遺物……………64
第22図	SI5遺物出土状況……………29	第69図	1区中世遺構配置図……………65
第23図	SI5出土遺物(1)……………30	第70図	SK2……………65
第24図	SI5出土遺物(2)……………31	第71図	SK2出土遺物……………65
第25図	SK1……………32	第72図	SK8……………66
第26図	SK1出土遺物……………32	第73図	SK15……………66
第27図	SK4……………33	第74図	ピット群1P4出土遺物……………66
第28図	SK4出土遺物……………33	第75図	ピット群1……………67
第29図	SK5……………34	第76図	1区時期不明遺構配置図……………69
第30図	SK6……………34	第77図	SK3……………69
第31図	SK7……………34	第78図	ピット群2……………70
第32図	SK9……………35	第79図	ピット群3……………70
第33図	SK10……………35	第80図	1-IV層出土遺物(1)……………72
第34図	SK11……………35	第81図	1-IV層出土遺物(2)……………73
第35図	SK12……………36	第82図	1-IV層出土遺物(3)……………74
第36図	SK13……………36	第83図	1-III層出土遺物……………75
第37図	SK16……………36	第84図	1-I・II層出土遺物……………77
第38図	SD3……………37	第85図	1区遺構外出土遺物……………78
第39図	SD3出土遺物……………37	第86図	2区調査後地形測量図……………81・82
第40図	SD4……………38	第87図	2区基本層序……………83・84
第41図	集石1……………39	第88図	2区縄文時代遺構配置図……………86
第42図	集石1遺物出土状況……………39	第89図	SK17……………87
第43図	集石1出土遺物……………40	第90図	SK17出土遺物(1)……………88
第44図	石柱……………41	第91図	SK17出土遺物(2)……………89
第45図	石柱実測図……………41	第92図	SK17出土遺物(3)……………90
第46図	土器溜り1……………42	第93図	2区古墳時代から古代遺構配置図……………91
第47図	土器溜り1出土遺物(1)……………44	第94図	SD6出土遺物……………91
		第95図	SD6……………92

第96図	流路1・3	93	第124図	木器溜り1	118
第97図	流路1出土遺物(1)	94	第125図	木器溜り1出土遺物	118
第98図	流路1出土遺物(2)	95	第126図	2-I層出土遺物(1)	120
第99図	流路1出土遺物(3)	96	第127図	2-I層出土遺物(2)	121
第100図	流路1出土遺物(4)	97	第128図	2-I層出土遺物(3)	122
第101図	流路1出土遺物(5)	98	第129図	2-I層出土遺物(4)	123
第102図	流路1出土遺物(6)	99	第130図	2-I層出土遺物(5)	124
第103図	流路1出土遺物(7)	100	第131図	2-II層出土遺物(1)	125
第104図	流路1出土遺物(8)	101	第132図	2-II層出土遺物(2)	126
第105図	流路1出土遺物(9)	102	第133図	2-II層出土遺物(3)	127
第106図	流路1出土遺物(10)	103	第134図	2-II層出土遺物(4)	128
第107図	流路3出土遺物(1)	104	第135図	2区遺構外出土遺物(1)	129
第108図	流路3出土遺物(2)	105	第136図	2区遺構外出土遺物(2)	130
第109図	流路2	106	第137図	2区遺構外出土遺物(3)	131
第110図	流路2出土遺物(1)	107	第138図	1区暦年較正結果	176
第111図	流路2出土遺物(2)	108	第139図	1区測定対象試料	177
第112図	流路2出土遺物(3)	109	第140図	2区暦年較正結果(確率分布: 2σ)	182
第113図	流路2出土遺物(4)	110	第141図	2区主要珪藻化石群集	186
第114図	流路2出土遺物(5)	111	第142図	2区花粉化石群集の層位分布	188
第115図	流路2出土遺物(6)	112	第143図	2区植物珪酸体含量	190
第116図	流路2出土遺物(7)	113	第144図	2区年代測定試料	194
第117図	流路2出土遺物(8)	114	第145図	遺跡変遷図(1)	196
第118図	流路2出土遺物(9)	115	第146図	遺跡変遷図(2)	197
第119図	2区中世遺構配置図	115	第147図	遺跡変遷図(3)	198
第120図	SD5	116	第148図	大山町域縄文住居跡	200
第121図	SD5出土遺物	117	第149図	縄文時代周辺遺跡分布図	203
第122図	土器溜り2	117			
第123図	土器溜り2出土遺物	118			

挿表目次

表1	SI1ピット一覧表	17	表36	2区出土土器・土製品観察表(9)	156
表2	SI2ピット一覧表	20	表37	2区出土土器・土製品観察表(10)	157
表3	SI3ピット一覧表	24	表38	2区出土土器・土製品観察表(11)	158
表4	SI4ピット一覧表	27	表39	2区出土土器・土製品観察表(12)	159
表5	SI5ピット一覧表	29	表40	2区出土土器・土製品観察表(13)	160
表6	土器溜り1出土土器時期別割合	43	表41	2区出土土器・土製品観察表(14)	161
表7	1-V層出土土器時期別割合	49	表42	2区出土土器・土製品観察表(15)	162
表8	ピット群1ピット一覧表	68	表43	2区出土土器・土製品観察表(16)	163
表9	ピット群2ピット一覧表	70	表44	2区出土土器・土製品観察表(17)	164
表10	ピット群3ピット一覧表	70	表45	2区出土土器・土製品観察表(18)	165
表11	1区出土土器・土製品観察表(1)	132	表46	2区出土石製品観察表(1)	166
表12	1区出土土器・土製品観察表(2)	133	表47	2区出土石製品観察表(2)	167
表13	1区出土土器・土製品観察表(3)	134	表48	2区出土石製品観察表(3)	168
表14	1区出土土器・土製品観察表(4)	135	表49	2区出土石製品観察表(4)	169
表15	1区出土土器・土製品観察表(5)	136	表50	2区出土石製品観察表(5)	170
表16	1区出土土器・土製品観察表(6)	137	表51	2区出土石製品観察表(6)	171
表17	1区出土土器・土製品観察表(7)	138	表52	2区出土木製品観察表	172
表18	1区出土土器・土製品観察表(8)	139	表53	2区出土金属製品観察表	172
表19	1区出土土器・土製品観察表(9)	140	表54	1区年代測定試料	173
表20	1区出土土器・土製品観察表(10)	141	表55	1区放射性炭素年代測定結果	175
表21	1区出土土器・土製品観察表(11)	142	表56	1区暦年較正年代	176
表22	1区出土土器・土製品観察表(12)	143	表57	2区年代測定試料	180
表23	1区出土石製品観察表(1)	143	表58	2区放射性炭素年代測定結果	181
表24	1区出土石製品観察表(2)	144	表59	2区珪藻分析結果(1)	183
表25	1区出土石製品観察表(3)	145	表60	2区珪藻分析結果(2)	184
表26	1区出土石製品観察表(4)	146	表61	2区花粉分析結果	187
表27	1区出土石製品観察表(5)	147	表62	2区植物珪酸体含量	189
表28	2区出土土器・土製品観察表(1)	148	表63	鳥取県内縄文住居跡一覧表(1)	201
表29	2区出土土器・土製品観察表(2)	149	表64	鳥取県内縄文住居跡一覧表(2)	202
表30	2区出土土器・土製品観察表(3)	150	表65	大山町域落とし穴一覧表	205
表31	2区出土土器・土製品観察表(4)	151	表66	殿河内上ノ段大ブケ遺跡石器 集計表(1)	208
表32	2区出土土器・土製品観察表(5)	152	表67	殿河内上ノ段大ブケ遺跡石器 集計表(2)	208
表33	2区出土土器・土製品観察表(6)	153			
表34	2区出土土器・土製品観察表(7)	154			
表35	2区出土土器・土製品観察表(8)	155			

巻頭図版目次

巻頭図版 1	1 区完掘状況(上空から)	巻頭図版 4	1 1 区出土縄文土器
巻頭図版 2	2 区完掘状況(上空から)	2	2 区流路 1 出土人面土製品
巻頭図版 3	1 SI 2 完掘状況(北から)		
	2 集石・石柱(復元)検出状況(北東から)		

図版写真目次

PL. 1	1 調査前航空写真(北上空から)	PL.21	1 SI 5 石囲炉完掘出土状況(北から)
	2 調査前航空写真(南上空から)	2	SI 5 石囲炉掘方土層断面(南から)
PL. 2	1 区調査後航空写真(東上空から)	PL.22	1 SK 1 検出状況(北から)
PL. 3	1 区調査後航空写真(西上空から)	2	SK 1 遺物出土状況(北から)
PL. 4	1 1 区調査後航空写真(北上空から)	3	SK 4 検出状況(東から)
	2 1 区調査後航空写真(南上空から)	4	SK 4 土層断面(北から)
PL. 5	1 1 区遺構群完掘状況航空写真(上空から)	5	SK 4 深鉢出土状況(北から)
	2 1 区遺構群完掘状況航空写真(西上空から)	6	SK 4 完掘状況(北から)
PL. 6	1 1 区南東側航空写真(上空から)	PL.23	1 SK 5 完掘状況(東から)
	2 1 区北東側航空写真(上空から)	2	SK 5 土層断面(東から)
PL. 7	1 SI 1 完掘状況(北から)	3	SK 6 完掘状況(北から)
	2 SI 1 遺物出土状況(北から)	4	SK 7 完掘状況(東から)
PL. 8	1 SI 2 完掘状況(北から)	5	SK 9 完掘状況(北東から)
	2 SI 2 検出状況(北から)	6	SK10完掘状況(東から)
PL. 9	1 SI 2 土層断面(北西から)	PL.24	1 SK11完掘状況(東から)
	2 SI 2 床面・遺物検出状況(北から)	2	SK12完掘状況(北東から)
PL.10	1 SI 2 石囲炉土層断面(南東から)	3	SK12土層断面(北西から)
	2 SI 2 石囲炉完掘状況(北から)	4	SK13完掘状況(南東から)
PL.11	1 SI 2 貼床除去・石囲炉石材除去状況(北から)	PL.25	1 SD 3 完掘状況(東から)
	2 SI 2 石囲炉断ち割り状況(北西から)	2	SD 3 遺物出土状況(東から)
PL.12	1 SI 2 石囲炉掘方完掘状況(北から)	3	SD 4 完掘状況(北から)
	2 SI 2 石囲炉掘方断ち割り状況(東から)	PL.26	1 集石 1 完掘状況(西から)
PL.13	1 SI 3 床面検出状況(北から)	2	石柱柱穴検出状況(北東から)
	2 SI 3 貼床除去後状況(北から)	3	石柱柱穴完掘状況(南から)
PL.14	1 SI 3・集石 1 検出状況(北から)	4	石柱柱穴断ち割り状況(北から)
	2 SI 3 土層断面(東から)	5	石柱柱穴断ち割り後状況(南から)
PL.15	1 SI 3 炉上面土器出土状況(西から)	PL.27	1 石柱復元・集石 1 検出状況(北から)
	2 SI 3 炉上面下層土器出土状況(北から)	2	石柱復元・集石 1 検出状況(北から)
PL.16	1 SI 4 完掘状況(西から)	3	石柱復元状況(北から)
	2 SI 4 検出状況(西から)	4	土器溜り 1 検出状況(南西から)
PL.17	1 SI 4 石囲炉掘方土層断面(北から)	PL.28	1 SK14完掘状況(北から)
	2 SI 4 石囲炉除去状況(西から)	2	SK14土層断面(東から)
PL.18	1 SI 5 遺物出土状況(北から)	3	SD 1 検出状況(北から)
	2 SI 5 床面検出状況(北から)	4	SD 1 礫出土状況(南から)
PL.19	1 SI 5 貼床除去後状況(北から)	PL.29	1 SD 1 礫除去状況(北から)
	2 SI 5 石囲炉除去状況(北から)	2	SD 1 礫除去状況(南から)
PL.20	1 SI 5 土層断面(南東から)	3	SD 1 完掘状況(北から)
	2 SI 5 石囲炉土層断面(南東から)	4	SD 1 完掘状況(南から)

PL.30	1	SD 1 土層断面F-F'(北から)	2	1-I・II層出土遺物
	2	SD 1 土層断面E-E'(北から)	PL.57	1区出土石器(1)
	3	SD 1 土層断面C-C'(北から)	PL.58	1 1区出土石器(2 石柱)
	4	SD 1 土層断面A-A'(北から)		2 1区出土石器(3)
	5	SD 2 掘り下げ状況(東から)	PL.59	1 1区出土石器(4)
	6	SD 2 完掘状況(東から)		2 1区出土石器(5)
PL.31	1	SK 2 完掘状況(北から)	PL.60	1区出土石器(6)
	2	SK 2 土層断面(南西から)	PL.61	1 1区出土石器(7)
	3	SK 8 完掘状況(北から)		2 1区出土石器(8)
	4	SK 8 土層断面(東から)	PL.62	1 2区完掘状況(南上空から)
	5	SK 15 完掘状況(東から)		2 2区完掘状況(北上空から)
	6	SK 15 土層断面(東から)	PL.63	2区完掘状況(東上空から)
PL.32	1	ピット群 1 P 4 内土器出土状況 (東から)	PL.64	1 SK 17 完掘状況(北から)
	2	SK 3 完掘状況(南東から)		2 SK 17 遺物出土状況(北西から)
	3	SK 3 土層断面(東から)		3 SK 17 遺物出土状況(南東から)
	4	SI 2 出土遺物	PL.65	1 SD 6 完掘状況(南から)
PL.33		SI 1・2 出土遺物		2 SD 6 検出状況(南西から)
PL.34	1	SI 3 出土遺物(1)		3 流路1・3完掘状況(南から)
	2	SI 3 出土遺物(2)	PL.66	1 流路2完掘状況(南西から)
PL.35		SI 3 出土遺物(3)		2 SD 5 検出状況(東から)
PL.36		SI 5 出土遺物		3 土器溜り2検出状況(東から)
PL.37		SK 1・集石 1 出土遺物		4 木器溜り1検出状況(北から)
PL.38		SK 4 出土遺物	PL.67	1 2-I層除去後状況(東から)
PL.39	1	SD 3 出土遺物		2 2-I層除去後状況(西から)
	2	土器溜り1出土遺物(1)	PL.68	2-II層除去後状況(南西から)
PL.40		土器溜り1出土遺物(2)	PL.69	SK 17 出土遺物(1)
PL.41	1	土器溜り1出土遺物(3)	PL.70	SK 17 出土遺物(2)
	2	土器溜り1出土遺物(4)	PL.71	1 SK 17 出土遺物(3)
	3	土器溜り1出土遺物(5)		2 SD 5、SD 6、流路3出土遺物
	4	土器溜り1出土遺物(6)	PL.72	流路1出土遺物(1)
PL.42		土器溜り1出土遺物(7)	PL.73	流路1出土遺物(2)
PL.43		土器溜り1出土遺物(8)	PL.74	流路1出土遺物(3)
PL.44		土器溜り1出土遺物(9)	PL.75	1 流路1出土遺物(4)
PL.45		土器溜り1出土遺物(10)		2 流路1・3出土遺物(5)・流路2出土遺物(1)
PL.46	1	1-V層出土遺物(1)	PL.76	1 SD 6 出土遺物(2)
	2	1-V層出土遺物(2)		2 流路1出土遺物(6)
PL.47		1-V層出土遺物(3)		3 流路1出土遺物(7)
PL.48		1-V層出土遺物(4)		4 流路2出土遺物(2)
PL.49	1	SD 1 出土遺物(1)	PL.77	1 流路2出土遺物(3)
	2	SD 1 出土遺物(2)		2 流路2出土遺物(4)
PL.50		SD 1 出土遺物(3)	PL.78	1 流路2出土遺物(5)
PL.51		SD 1 出土遺物(4)		2 流路2出土遺物(6)
PL.52	1	SD 1 出土遺物(5)	PL.79	流路2出土遺物(7)
	2	SD 1 出土遺物(6)	PL.80	1 流路1・2出土遺物(8)
PL.53	1	SD 2 出土遺物		2 流路2出土遺物(9)
	2	SK 2 出土遺物	PL.81	1 流路2出土遺物(10)
	3	ピット群 1 P 4 出土遺物		2 流路2出土遺物(11)
PL.54		1-IV層出土遺物(1)	PL.82	流路2出土遺物(12)
PL.55		1-IV層出土遺物(2)	PL.83	流路1出土遺物(9)、流路2出土遺物(13)
PL.56	1	1-III層出土遺物	PL.84	1 土器溜り2出土遺物
				2 木器溜り1出土遺物

PL.85	1	2 - I 層出土遺物(1)	PL.94	1	2区出土石鏃(1)
	2	2 - I 層出土遺物(2)		2	2区出土石鏃(2)
	3	2 - I 層出土遺物(3)	PL.95	1	2区出土石鏃(3)
	4	2 - I・II 層出土遺物(1)		2	2区出土石鏃(4)
PL.86		2 - I 層出土遺物(4)	PL.96	1	2区出土石鏃(5)
PL.87	1	2 - I 層出土遺物(5)		2	2区出土剥片石器
	2	2 - I 層出土遺物(6)	PL.97	1	2区出土打製石鏃(1)
PL.88		2 - I 層出土遺物(7)		2	2区出土打製石鏃(2)
PL.89		2 - I・II 層出土遺物(2)	PL.98	1	2区出土打製石鏃(3)
PL.90		2 - II 層出土遺物(1)		2	SK17出土石器
PL.91		2 - II 層出土遺物(2)	PL.99	1	2区出土礫石器(1)
PL.92		2区遺構外出土遺物		2	2区出土礫石器(2)
PL.93	1	2区出土土錘	PL.100		2区珪藻化石
	2	2区出土煙管	PL.101		2区花粉化石
	3	2区出土錢貨	PL.102		2区植物珪酸体

文中写真目次

文中写真1	1区北西側完掘状況(南から)……11	文中写真9	1区作業風景(南から)……68
文中写真2	1区南側土層断面(北から)……15	文中写真10	平成23年度現地説明会風景(1)……79
文中写真3	1区東側土層断面(北西から)……15	文中写真11	平成23年度現地説明会風景(2)……79
文中写真4	1区北東側土層断面(南西から)……15	文中写真12	2区重機表土剥ぎ作業風景……80
文中写真5	1区北西側土層断面(南から)……15	文中写真13	2区作業風景(1)……80
文中写真6	1区重機表土剥ぎ風景(1)……61	文中写真14	平成24年度現地説明会風景(1)……87
文中写真7	1区重機表土剥ぎ風景(2)……61	文中写真15	平成24年度現地説明会風景(2)……87
文中写真8	1区SI2作業風景(北から)……68		

第1章 調査の経緯

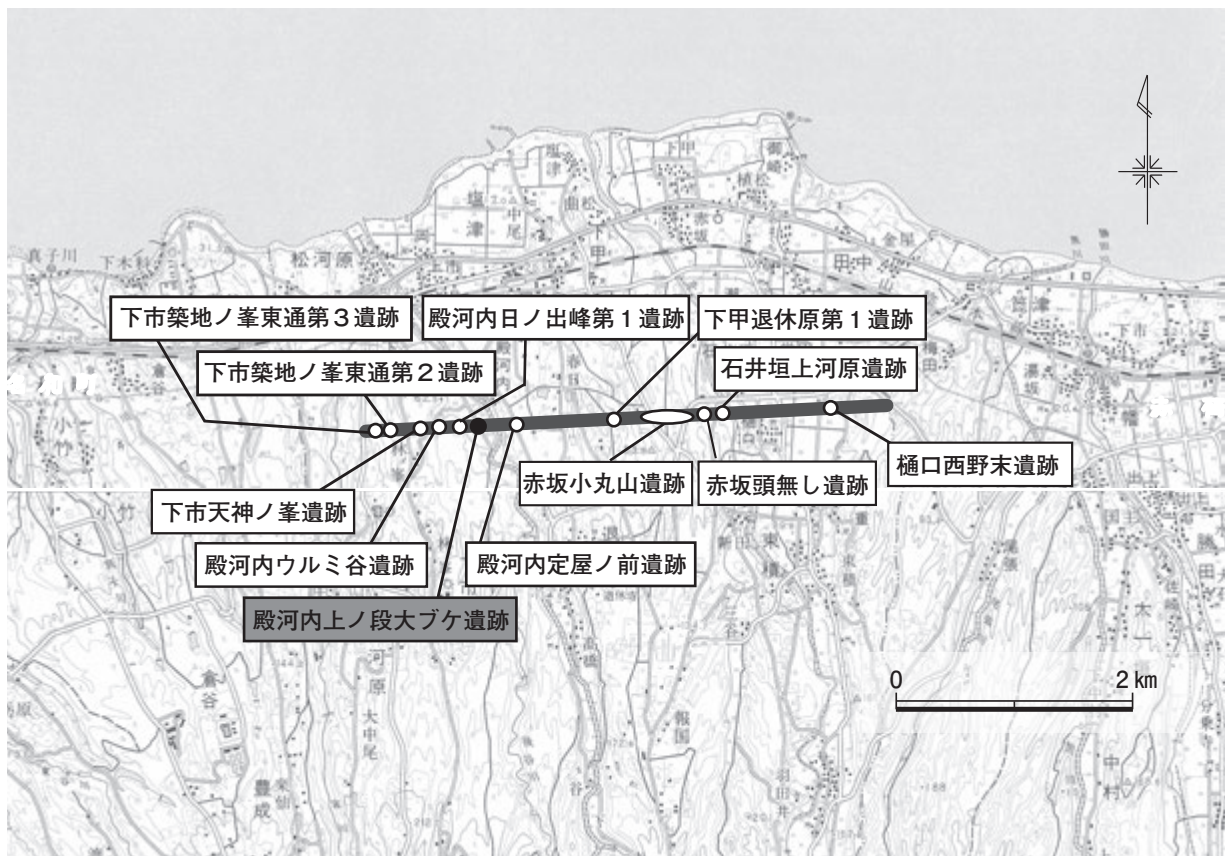
第1節 調査に至る経緯

本調査は、平成23年度及び平成24年度一般国道9号中山名和道路の改築に伴い行った、西伯郡大山町殿河内の工事予定地内に所在する、周知の埋蔵文化財包蔵地（以下遺跡）である殿河内上ノ段大ブケ遺跡の本発掘調査である。

山陰地方では、国道9号線の交通混雑緩和、荒天時の交通障害解消、災害時の緊急輸送の代替道路確保及び将来の国土幹線道路整備として、山陰自動車道の整備事業が進められ、鳥取県西部地域では、米子道路、名和淀江道路が自動車専用道路として一部供用されている。

このうち、大山町を通る中山名和道路の計画地内及び隣接地には、多数の遺跡があり、建設に先立って計画地内の遺跡の有無・範囲・性格・内容等を確認する必要性が生じた。このため、平成19年度から大山町教育委員会によって、国庫補助事業として逐次試掘調査が行われた。また、平成21年度からは、鳥取県埋蔵文化財センターも確認調査を行うこととなり、樋口西野末遺跡他11遺跡、平成22年度は、下甲退休原第1遺跡、殿河内日ノ出峰第1遺跡、殿河内日ノ出峰第2遺跡、石井垣上河原遺跡、赤坂頭無し遺跡、赤坂小丸山遺跡の確認調査を行った。

これらの結果を受け、文化財保護法に基づく手続きを踏まえ、平成21年度から鳥取県埋蔵文化財センターが調査主体となり、樋口西野末遺跡の一部及び下市天神ノ峯遺跡の2遺跡、平成22年度は



第1図 国道9号（中山名和道路）関係遺跡位置図

第1章 調査の経緯

殿河内定屋ノ前遺跡、殿河内日ノ出峰第1遺跡、下市築地ノ峯東通第2遺跡、下市築地ノ峯東通第3遺跡の4遺跡の本発掘調査を実施し、報告書が刊行された。

平成23年度は、樋口西野末遺跡、石井垣上河原遺跡、赤坂頭無し遺跡、赤坂小丸山遺跡、殿河内定屋ノ前遺跡、殿河内上ノ段大ブケ遺跡の本調査を実施し、継続調査分を除き報告書が刊行された。

平成24年度は、殿河内上ノ段大ブケ遺跡、殿河内ウルミ谷遺跡、下甲退休原第1遺跡、赤坂小丸山遺跡を本調査の対象とし、当該年度で工事予定範囲の遺跡調査をすべて終了した。

【参考文献】

大山町教育委員会2010『町内遺跡発掘調査報告書Ⅱ』大山町文化財調査報告書第9集

大山町教育委員会2011『町内遺跡発掘調査報告書Ⅲ』大山町文化財調査報告書第13集

大山町教育委員会2012『町内遺跡発掘調査報告書Ⅳ』大山町文化財調査報告書第14集

鳥取県埋蔵文化財センター 2011『樋口西野末遺跡 下市天神ノ峯遺跡』鳥取県埋蔵文化財センター調査報告書37

鳥取県埋蔵文化財センター 2012『下市築地ノ峯東通第3遺跡』鳥取県埋蔵文化財センター調査報告書43

鳥取県埋蔵文化財センター 2012『殿河内定屋ノ前遺跡』鳥取県埋蔵文化財センター調査報告書45

鳥取県埋蔵文化財センター 2012『樋口西野末遺跡Ⅱ』鳥取県埋蔵文化財センター調査報告書48

鳥取県埋蔵文化財センター 2013『下市築地ノ峯東通第2遺跡』鳥取県埋蔵文化財センター調査報告書49

鳥取県埋蔵文化財センター 2013『石井垣上河原遺跡 赤坂頭無し遺跡』鳥取県埋蔵文化財センター調査報告書50

第2節 調査の方法と経過

1 調査区の名称と調査方法

殿河内上ノ段大ブケ遺跡の調査前の状況は、水田、畑地及び道路で、便宜的に平成23年度調査区を1区、平成24年度調査区を2区として調査した。

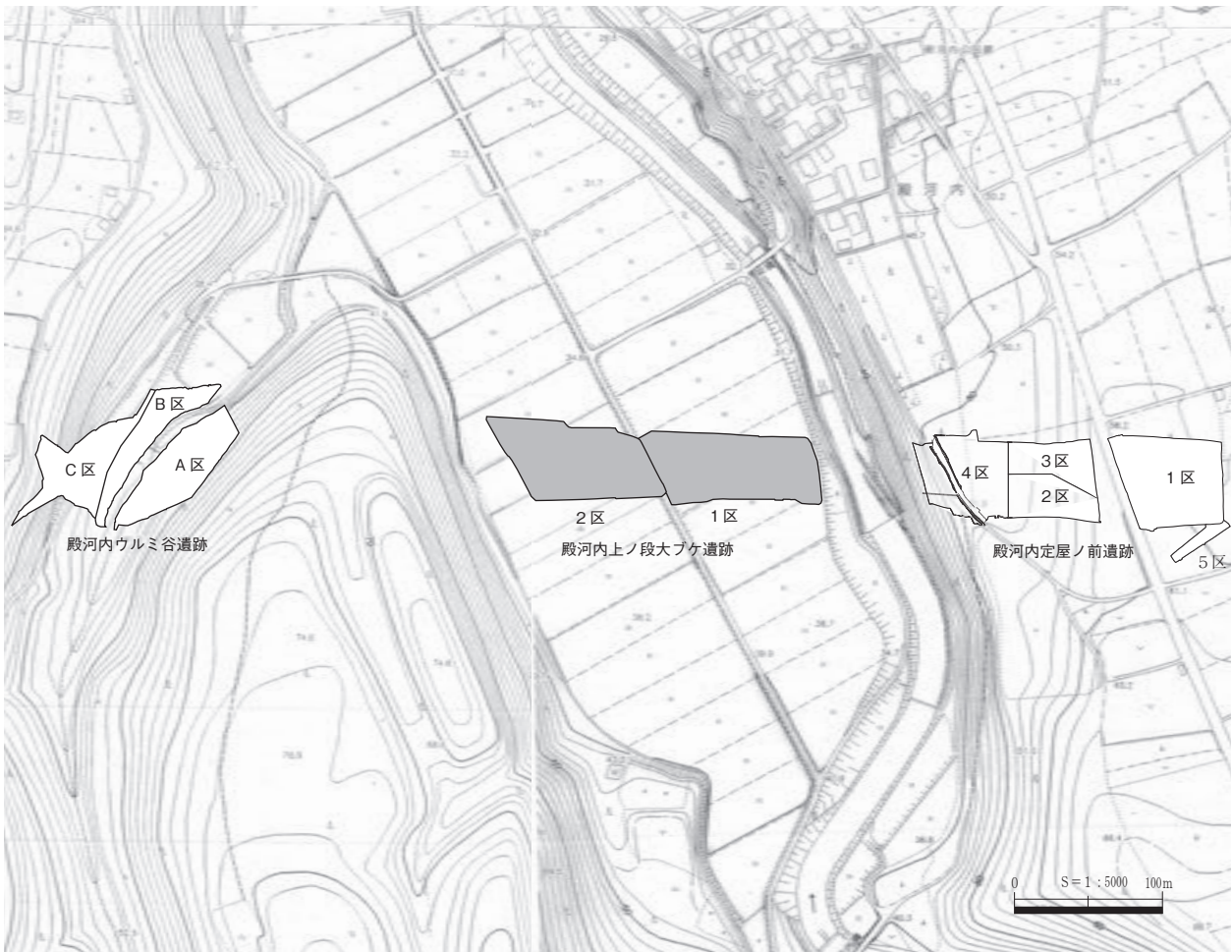
平成23年度の調査区は、遺跡中央部分を南北に走る農道を境にした東側部分である。重機表土剥ぎ後、世界測地系公共座標第V系に載るように調査区内に10m方眼の基準杭を設定し、グリッドを設けた。グリッド名は、東西南北軸交点の北東杭名を採った。座標は、C3杭(X: -54280 m, Y: -69800 m)、F12杭(X: -54310 m, Y: -69890 m)などとなった。標高値は、国土交通省2級基準点H19-2-8の38.600 mを使用した。

平成24年度の調査区は、前年度に倣いグリッドを設定した。グリッド名も前年に続く名称をつけ、座標は、F13杭(X: -54310 m, Y: -69900 m)、B23杭(X: -54270 m, Y: -70000 m)などとなった。標高値は、国土交通省2級基準点H19-2-8の38.600 mを使用した。

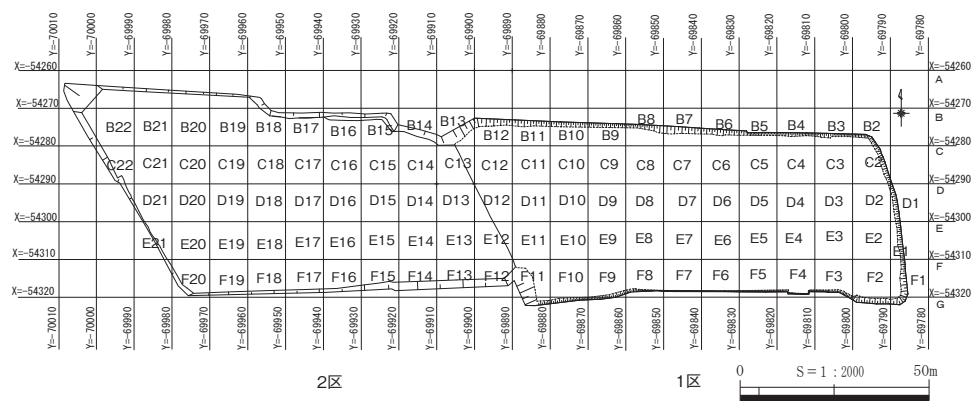
検出した遺構・遺物の記録には、光波トランシット及び自動レベルを用い、光波トランシットによる座標測量を行った。現地での写真撮影は35mm判、中(6×7)判、大(4×5)判カメラにより、地上又は写真用足場上から行った。また、調査前状況及び調査後状況写真については、ラジコンヘリコプターからの空中写真撮影(中判カメラ使用)も併せて行った。遺物写真撮影は、中(6×7)判及び大(4×5)判カメラを用いた。いずれも白黒ネガフィルム並びにカラーポジフィルムを使用し、適宜デジタルカメラも使用した。

2 調査の経過

平成23年度調査は、前年度の平成23年3月に調査前航空写真撮影を行い、4月1日から調査前基準点測量を行った。4月27日には発掘作業員事前説明会を行い、調査に向けての準備を進めていたが、国土交通省による工事用車両搬入用の農道補強工事が遅れたために、4月からの調査開始が困



第2図 調査区位置図



第3図 調査区区割り図

難となったため、農道補強工事が終了してから調査を開始することとなった。

まず、6月20日から6月28日にかけて第1回目の重機による表土剥ぎ作業を行った。表土剥ぎ作業は排土搬出等を勘案し計3回に分けて行い、第2回目を9月12日から9月16日まで、第3回目を10月24日から10月26日まで行った。方眼測量は、第1回の重機表土剥ぎ作業後に業者委託した。

遺構検出及び掘下げ作業は、7月13日から発掘用具等を搬入することからはじめ、12月14日まで行った。途中8月24日から9月27日にかけては、殿河内定屋ノ前遺跡の調査を行うために一時中

第1章 調査の経緯

断し、9月28日から再開した。排土は調査地内に仮置きし、重機表土剥ぎ作業にあわせて調査対象外へ搬出した。11月27日には、一般の方を対象とした現地説明会を開催したところ、県内外から76名の方々に参加いただいた。調査に並行して、調査後地形測量を11月21日から12月2日にかけて、調査後航空写真撮影を12月7日に業者委託して行った。遺構掘り下げ作業は、12月14日まで行ったが、作業員稼働終了後も遺構実測作業等を行い、12月22日ですべての作業を終了した。

調査の結果、縄文時代後期の竪穴建物跡5基、土坑11基、溝1基、土器溜り1箇所、弥生時代の土坑1基、自然河川1基、古墳時代の溝1基、中世の土坑3基、ピット群1箇所、時期不明の土坑1基、ピット群2箇所を検出した。調査面積は、5,562m²となった。

平成24年度調査は、平成24年3月に重機表土剥ぎ作業を行い、終了後の4月9日から調査前基準点測量を行い、準備に取りかかった。

4月12日には発掘作業員事前説明会を行い、本格的に調査を開始した。遺構検出及び掘り下げ作業は、調査区周辺が水田のため湧水が著しいこともあり、田植えが始まるまでに標高の一番低い調査区北西側部分を終了させるべく、先行して調査を行い、終了後は周辺工事との兼ね合いで調査区南・東側部分の調査を先行して進め、11月30日まで行った。途中11月11日には、一般の方を対象とした現地説明会を殿河内ウルミ谷遺跡と併せて開催したところ、悪天候に関わらず県内外から36名の方々に参加いただいた。また、調査に並行して調査後地形測量を11月19日から11月22日にかけて、調査後航空写真撮影を11月27日に行った。撤収作業は、12月19日に行った。

調査の結果、縄文時代晩期の土坑1基、古墳時代の溝1基、古墳時代に埋没したと考えられる自然河川3基、中世の溝1基、土器溜り、木器溜りなどを検出した。調査面積は、4,314m²となった。

平成25年度は、報告書作成を行い、平成26年3月に刊行した。

第3節 調査体制

下記の体制で発掘調査、報告書作成を行った。

鳥取県埋蔵文化財センター

平成23年度

所 長	久保 穰二郎
次 長	中尾 淳一（兼総務係長）
総 務 係	
副 主 幹	白岩 準市
主 事	楠原 真衣
事務職員	大丸 真紀、岡村 好美
発掘事業室	
室 長	山柘 雅美（兼調整係長）
調 整 係	
発掘調査員	岩垣 命
事務職員	倉益 知子
調査担当（大山調査事務所）	
副 主 幹	牧本 哲雄（統括責任者兼調査担当責任者）

文化財主事	家塚 英詞、原田 克美
発掘調査員	折井 敦、松田 重治
事務職員	尾崎 勇真（6月退職）、犬塚 義人（8月から）、小塩 真生

平成24年度

所 長	久保 穰二郎
次 長	中村 靖浩
総 務 係	
副 主 幹	白岩 準市
主 事	水本 裕子
事務職員	大丸 真紀、岡村 好美
発掘事業室	
室 長	山栴 雅美（兼調整係長）
調 整 係	
発掘調査員	岩垣 命
事務職員	池永 幸子
調査担当（大山調査事務所）	
副 主 幹	牧本 哲雄（統括責任者）
文化財主事	濱本 利幸（調査担当責任者）、高橋 章司、勢村 茉莉子
事務職員	國谷 亮介、鳥橋 あゆみ

平成25年度

所 長	久保 穰二郎
次 長	中村 靖浩
総 務 係	
係 長	白岩 準市
主 事	松浦 広美
事務職員	坂本 真奈美
発掘事業室	
室 長	山栴 雅美（兼調整係長）
調 整 係	
発掘調査員	岩垣 命
事務職員	渡邊ゆきえ
調査担当（大山調査事務所）	
係 長	牧本 哲雄
文化財主事	高橋 章司、坂本 嘉和
事務職員	渡辺 晃

第1章 調査の経緯

調査日誌抄

平成23年度

4月27日	発掘作業員業辞令交付式、事前説明会、人権研修	10月24日	第3回重機表土剥ぎ作業（～26日）。SI 2土層断面図作成。集石平面図作成。SD 1礫除去後状況写真。SD 2掘り下げ。
6月20日	重機表土剥ぎ作業（～28日）	11月9日	SI 1遺物ポイント上げ。SI 2石囲炉土層断面写真・実測。集石実測。SD 2礫除去作業。SD 3遺物実測・平・断面実測。SK 4遺物出土写真・土器実測・取り上げ。SI 5ベルト設定掘り下げ。
7月5日	方眼測量作業	11月14日	集石実測。SI 2柱穴検出。SI 5掘り下げ状況写真・土層断面実測。SD 2・3完掘写真。
7月13日	発掘用具運搬、環境整備作業	11月21日	SI 1完掘写真。SI 2完掘。SI 3平面実測。SK 9・10・11完掘写真
7月14日	遺構検出作業開始	11月27日	現地説明会開催。76名参加。
7月25日	発掘機材搬入	12月6日	SI 2平面実測。SI 4平面実測終了。SI 5床面実測終了。SK12・13完掘写真。集石除去。
7月26日	遺物包含層検出作業	12月7日	調査後空撮終了。SI 1・4・5完掘写真。SI 2平面実測。
8月18日	SD 1検出	12月14日	SI 2完掘写真。SI 3床面検出写真。SI 5完掘写真。ピット群平面実測終了。発掘用具運搬。発掘作業員稼働終了
8月24日から9月27日	検出・掘り下げ作業中断	12月22日	すべての現地作業終了。
9月12日	第2回重機表土剥ぎ作業（～16日）		
9月28日	作業再開		
9月29日	SD 1掘り下げ		
10月4日	SI 1・2検出、SK 1検出写真		
10月6日	SD 1検出写真、SI 2検出写真・掘り下げ開始、SI 3検出写真、		
10月14日	SI 2石囲炉確認。SI 3礫・遺物出土状況写真・平面図作成。SK 1掘り下げ状況写真。SK 2完掘写真。SD 1掘り下げ。		

平成24年度

4月12日	発掘作業員辞令交付式、事前説明会、人権研修	9月14日	2-2層掘削。台風養生。
4月27日	自然流路1掘削。木器溜り1検出	10月16日	自然流路1、SK17、SD 6掘り下げ。SD 6検出写真。
5月17日	自然流路1完掘。木器溜り遺物取り上げ。産業医職場巡視。	10月22日	自然流路1、SK17掘り下げ。SD 6完掘写真。SK17遺物出土状況実測。
6月4日	1層（中世包含層）掘削。人面土製品出土。	11月11日	現地説明会。36名参加。
6月26日	1層掘削。自然流路3-2掘り下げ。調査区土層確認。	11月21日	自然流路1・2掘り下げ。SK17完掘・遺構実測。完掘写真。空撮準備。
7月24日	1層掘削。土器溜り1写真撮影、実測。	11月27日	調査後航空写真撮影。第2遺構面完掘写真。自然流路1・2完掘写真・実測。自然流路3断面実測。自然流路最下層掘り下げ。
7月31日	1層掘削。F 20～G 20グリッド南北トレンチ土層断面図作成。C 18グリッド遺物出土状況写真撮影。	11月29日	自然流路1・2・3掘り下げ・平面図作成。
8月23日	1層掘削。SD 5検出写真、掘り下げ。南北土層断面実測。	11月30日	自然流路1・3完掘。SD 5平面実測。プレハブ移動に伴い、作業道具運搬。
9月5日	2層上面完掘写真作業撮影。	12月1日～19日	下甲退休原第1遺跡、殿河内ウルミ谷遺跡支援。撤収作業終了。
9月7日	2-1層（礫層）除去（～14日）。		

第2章 位置と環境

第1節 地理的環境

殿河内上ノ段大ブケ遺跡が所在する大山町は、鳥取県西部、西伯郡の北東部を占める位置にあり、県庁所在地の鳥取市からは西へ約80km、県西部中核都市の米子市に隣接する。町域は、南端の大山(1,729m)を頂点に、船上山(615m)から金屋付近の日本海に至る線を東辺とし、西辺は大山を頂点に下楨原・孝霊山(751m)を結び保田付近の日本海に至る、不整逆三角状に広がる形を呈す。東西約15km、南北約20km、総面積は約189.8km²を測り、人口は17,415人(平成25年12月現在)の農畜産漁業・観光を主な産業にする町である。

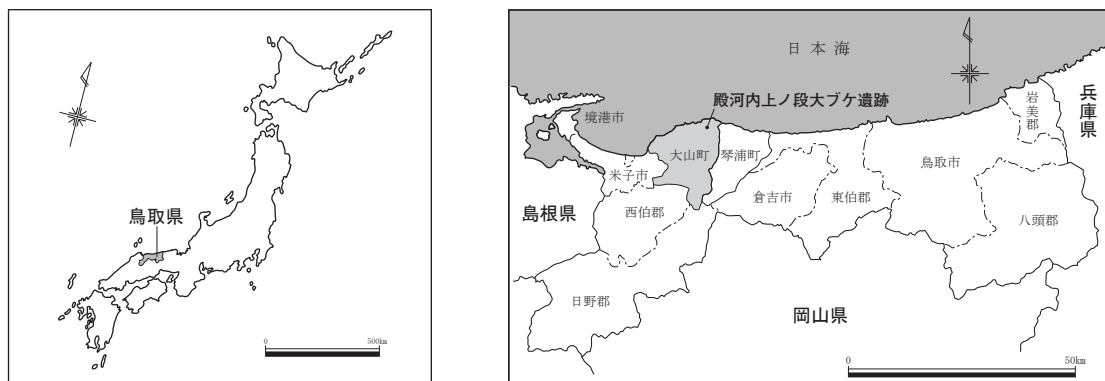
本町の地勢は、大山山系から放射状に流れる小河川により開削並びに侵食され残った、手指状に延びる台地上の尾根と急峻な小溪谷が繰り返す火山性台地と、甲川、下市川、真子川、名和川、阿弥陀川流域に発達した平野部からなる。平野部は、肥沃な黒ボク地帯で、特に阿弥陀川流域は県内でも屈指の広さとなる扇状地を形成している。台地は、御来屋砂礫層上に主に大山火山灰土の堆積したもので、海岸線付近まで延びている。町内には、前述の大山山麓に源流を発する河川の他、大小計12本の川が日本海に注いでいる。

殿河内上ノ段大ブケ遺跡は、同町の北側やや東部に位置し、海岸線から約1.5kmにある、下市川の左岸に形成された、標高約35mの河岸段丘上に立地している。殿河内集落の南西側の水田部に位置している。当遺跡から約200m東側の丘陵上には、縄文時代から近世にかけての集落遺跡である殿河内定屋ノ前遺跡があるほか、西側丘陵裾部には、製炭土坑が検出された殿河内日ノ出峰第1遺跡、西側丘陵を挟んだ斜面部から谷部には、旧石器時代から中世にかけての集落・生産遺跡である殿河内ウルミ谷遺跡がある。

第2節 歴史的環境

ここでは、殿河内上ノ段大ブケ遺跡が所在する大山町東部(旧中山町)を中心に、隣接する琴浦町西部地域も含めた周辺遺跡の概要について述べる。

旧石器時代 発掘調査で確認された鳥取県下の旧石器遺跡は、現在のところ5遺跡である。豊成叶林



第4図 遺跡位置図

第2章 位置と環境

遺跡（122）、下甲退休原第1遺跡（138）では、AT火山灰下の白色ローム層中で玉髓製ナイフ形石器をはじめ玉髓の剥片、黒曜石製小石刃が原位置を保って出土している。また、殿河内ウルミ谷遺跡（135）では、二次堆積土中から黒曜石製小石刃・石核等が出土している。その他周辺では、梅田萱峯遺跡（88）でナイフ形石器が、豊成上金井谷峰遺跡（124）で台形石器が、本来の位置を遊離した状態で出土している。

縄文時代 当該地域は、県内においてもこの時期の遺跡が多数存在する地域である。草創期では、羽田井・退休寺などで有茎尖頭器が表採され、住吉第2遺跡（67）で有茎尖頭器、細工塚遺跡（63）で局部磨製石斧が出土している。

早期では、遺構は伴わないが赤坂後口山遺跡（71）、退休寺飛渡り遺跡（75）、上大山第1遺跡（36）、角塚遺跡（39）などで押型文土器が出土している。

前期では、石器製作を行っていたと推定される下市築地ノ峯東通第2遺跡（60）、貯蔵穴が確認された細工塚遺跡がある。

後期では、殿河内上ノ段大ブケ遺跡（137）では、石囲炉をもつ4棟の竪穴住居跡ほか計5の竪穴住居跡が検出され、県内でも屈指の規模となる縄文集落である。また、南原千軒遺跡（琴浦町光）でも石囲い炉をもつ竪穴住居跡が検出されており、遺構外から県内6例目となる土偶が出土している。その他、縄文時代を通じて、落とし穴が殿河内定屋ノ前遺跡（131）をはじめ、八重第3遺跡（91）、小松谷遺跡（68）、下甲抜堤遺跡（70）、赤坂後口山遺跡（71）、下市築地峯東通第3遺跡（59）、小竹上鷹ノ尾遺跡（59）など多数の遺跡で検出されており、狩猟場として丘陵・微高地縁辺部が利用された様子が窺われる。

弥生時代 この地域では前期の遺構は少なく、樋口第1遺跡（87）、三谷遺跡（98）などで土器が出土している程度である。

中期になると遺跡数が増え、集落遺跡として細工塚遺跡（63）、退休寺遺跡（74）、退休寺飛渡り遺跡、南原千軒遺跡、殿河内定屋ノ前遺跡、化粧川遺跡（琴浦町赤碓）などが挙げられる。倉谷荒田遺跡（121）では、中期後葉の竪穴住居跡から鉄製品が出土しており、山陰地方における鉄器の普及開始段階の一例となっている。墳墓では墓ノ上遺跡（琴浦町松谷）、別所女夫岩峯遺跡（琴浦町別所）で木棺墓が見つかり、梅田萱峯遺跡では、中期後葉の貼石を施した長方形の墳丘墓（梅田萱峯墳丘墓）が検出された。現時点で県内では最古級の弥生墳丘墓である。

後期には、退休寺遺跡、八重第3遺跡、籠津乳母ヶ谷第2遺跡（90）、梅田萱峯遺跡、梅田東前谷中峯遺跡（89）など丘陵上に集落が多数造営される。湯坂遺跡（琴浦町湯坂）では小型の墳丘墓を埋葬に伴って増築した例があり、山陰地方では珍しい鉄石英製の管玉が副葬されていた。

古墳時代 古墳時代前期では、当該地域では石井垣上河原遺跡（141）の墳墓群がある。方形墳墓の他、山陰地方を中心に分布する四隅突出型の墳丘形態をもつ墳墓からなり、弥生時代から古墳時代にかけての過渡的様相を示す遺跡である。その他、前方後方墳の別所1号墳（笠取塚古墳、52m）（琴浦町別所）は、墳形の特徴から前期に築造された可能性がある。

また、中期後半の高塚古墳（岡1号墳）（54）は朝顔形埴輪・形象埴輪などが出土した直径30mの大型円墳で当地域の首長墳と位置づけられる。

中期から後期にかけては丘陵や段丘上に古墳や横穴墓が群を成して築造されるようになる。御崎古墳群（79）、別所古墳群（琴浦町別所）、籠津古墳群（83）、坂ノ上古墳群（84）、梅田（栄田）古墳群（85）、東積古墳群（99）、三谷古墳群（97）、豊成古墳群（44）などがある。御崎古墳群・別所古墳群・



- 1.大塚第3遺跡、2.大塚岩田遺跡、3.大塚塚根遺跡、4.大塚屋敷遺跡、5.富長城跡、6.古御堂遺跡、7.文殊領屋敷遺跡、8.荒田遺跡、9.南川遺跡、10.馬郡遺跡、11.名和公園裏古墳群、12.ハンボ塚古墳、13.長者原遺跡、14.坪田古墳群、15.富長山村古墳群、16.門前礎石群、17.門前古墳群、18.長綱時古墳群、19.原3号墳、20.茶畑山遺跡、21.清原遺跡、22.中高遺跡、23.長田古墳群、24.平古墳群、25.徳楽方墳、26.源平山古墳群、27.宮内古墳群、28.茶畑古墳群、29.茶畑第2遺跡、30.東高田遺跡、31.高田26号墳、32.高田古墳群、33.高田原廃寺、34.高田第4遺跡、35.高田第10遺跡、36.上大山第1遺跡、37.蔵岡第1遺跡、38.梶原古墳群、39.角塚遺跡、40.栃原遺跡、41.栃原竈跡、42.上寺谷たたら、43.東坪古墳群、44.豊成古墳群、45.豊成28号墳、46.長野城跡、47.浜ノ坂遺跡、48.龍光寺掘遺跡、49.倉谷横穴墓、50.松河原第1遺跡、51.松河原第2遺跡、52.岩屋堂古墳(岡古墳)、53.岡3号古墳、54.高塚古墳、55.曲松古墳群、56.築地峯東通遺跡、57.林之峯東通遺跡、58.天守山遺跡、59.下市築地ノ峯東通第3遺跡、60.下市築地ノ峯東通第2遺跡、61.要害ノ峯遺跡、62.築地ノ峯第3遺跡、63.細工塚遺跡、64.向畑遺跡、65.住吉第4遺跡、66.住吉第1遺跡、67.住吉第2遺跡、68.小松谷遺跡、69.林之峯遺跡、70.下甲拔堤遺跡、71.赤坂後口山遺跡、72.石井垣城跡、73.殿河内落合遺跡、74.退休寺遺跡、75.退休寺飛渡り遺跡、76.退休寺第1遺跡、77.二本松遺跡、78.羽田井遺跡、79.御崎古墳群、80.御崎第2遺跡、81.田中川上遺跡、82.籠津城跡、83.籠津古墳群、84.坂ノ上古墳群、85.梅田(栄田)古墳群、86.梅田六ツ塚遺跡、87.樋口第1遺跡(樋口遺跡)、88.梅田萱峯遺跡、89.梅田東前谷中峯遺跡、90.籠津乳母ヶ谷第2遺跡、91.八重第3遺跡、92.樋口第2遺跡、93.八重第4遺跡、94.八重第1遺跡、95.岩屋平古墳、96.八重第2遺跡、97.三谷古墳群、98.三谷遺跡、99.東積古墳群、100.押平弘法堂遺跡、101.茶畑六反田遺跡、102.茶畑第1遺跡、103.押平尾無遺跡、104.古御堂笹尾山遺跡、105.古御堂金蔵ヶ平遺跡、106.古御堂新林遺跡、107.門前第2遺跡、108.門前鎮守山城跡、109.門前上屋敷遺跡、110.名和飛田遺跡、111.名和乙ヶ谷遺跡、112.名和衣裳谷遺跡、113.名和小谷遺跡、114.名和中歌遺跡、115.西坪岩屋谷遺跡、116.西坪岩屋谷古墳、117.東坪中林遺跡、118.小竹下宮尾遺跡、119.小竹上鷹ノ尾遺跡、120.倉谷西中田遺跡、121.倉谷荒田遺跡、122.豊成叶林遺跡、123.豊成上神原遺跡、124.豊成上金井谷峰遺跡、125.松河原上奥田第2遺跡、126.西坪上高尾原遺跡、127.西坪下馬駄ヶ峰遺跡、128.名和下葛蒲谷遺跡、129.西坪三軒屋遺跡、130.下市天神ノ峯遺跡、131.殿河内定屋ノ前遺跡、132.樋口西野末遺跡、133.松河原上奥田第3遺跡、134.下市前築地遺跡、135.殿河内ウルミ谷遺跡、136.殿河内日ノ出峰第1遺跡、137.殿河内上ノ段大フケ遺跡、138.下甲退休原第1遺跡、139.赤坂丸山遺跡、140.赤坂頭無し遺跡、141.石井垣上河原遺跡

第5図 周辺遺跡位置図

梅田古墳群では、横穴式石室が採用される直前の時期に、この地域独特の河原石を用いた箱式石棺を主体部にもつものがみられる。

後期には、岩屋堂古墳(岡古墳)(52)、長野2号墳、岩屋平古墳(95)、豊成28号墳、出上岩屋古墳(県史跡)(琴浦町出上)など切石積みの横穴式石室をもつものがあり、米子市淀江町域にかけての同一文化圏を形成している。

この時代の集落は、依然として丘陵上に営まれる傾向が強く、前期の八重第3遺跡、下市前築地遺跡、中期から後期の赤坂頭無し遺跡(140)、住吉第2遺跡、南原千軒遺跡などがある。また籠津乳母ヶ谷第2遺跡(90)では、後期の鍛冶工房が検出されている。

古代 大山町東部(旧中山町域)は伯耆国の汗入郡に属する。『倭名類聚抄』によれば、東積・汗入・